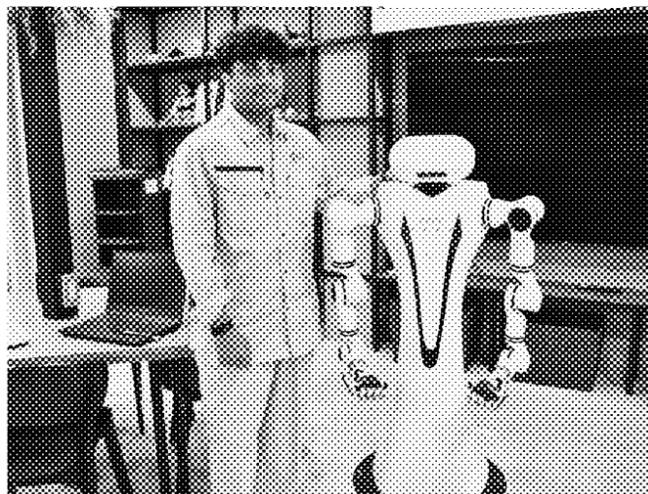


高度外国人材を活用

中小企業の人手不足が深刻化する中で、特にIT関連やロボットなど高度な技術やノウハウを持つ人材が集まりにくい現状がある。そこで海外人材に目を向け、大学などを卒業し専門的な技術や知識を持つ高度外国人材の採用を積極化し、事業経営にうまく活用する企業がある。大阪府の中小の取り組みを追った。(大阪・池知恵)

HCI

シエクトリーダーに、入社3年目だったインテグレーション(SI)サチャナラヤナ・ウエエ(er)のHCI(大阪)ンカテシユさんを抜擢(たつやく)府泉大津市、奥山剛旭(おんやまこうとく)社長)は近年、主力の HCIは2002年産業用ロボットに加にケーブル製造装置のえ、新たにサービスロ 製作会社として創業。ロボットの開発に力を注 当時は会社の知名度がいである。その中でも 低く、国内で優秀な人食事を配膳する人間型 材が集まりにくい状況ロボットなどのソフト だった。そこで14年こウエア開発を担うプロ ころから日本語能力が高



HCIに入社4年目のインド出身のスリプラム・サチャナラヤナ・ウエエ(er)さん。食事の配膳などを行う人間型ロボットのソフトウエア開発のプロジェクトリーダーを務める

大阪中小、人手不足乗り越え成長

技術力のある高度人材を採用したところ サポートできる体制を「非常に優秀だった」 整える。

長谷川工業

脚立やはしこの老舗企業である長谷川工業(大阪市西区、長谷川)のシステム開発や機械 泰正社長)も、拡張現設計、営業など多様な実(A/R)を活用した部門で活躍している。営業支援ツールなどの一方で外国人を雇う 開発に向け、このほど上でのリスクもある。インド出身で新卒のI「異国の地で働く我が Tエンジニアを採用し子を心配し、親が子を た。

ARの営業支援ツール呼び戻すケースも少ない)同)。だからは現在外注で対応し(同)。「私が親代わり ているが、開発コストになってサポートする を抑え、開発スピードこと」を心がける。日 を上げるための内製化頃の業務で頻繁にコミ などを考えていた。国ユニケーションを取る 内ではなかなか人材がことほもちろん、行政 見つからず、IT大国の手続きや病気に罹患 のインドに目をつけ



長谷川工業が提供する、ARを活用した営業支援ツール「メーカーパーク」。現在は外注で対応しているが、今後内製化に向けた開発を進めている

サポートしっかり/モチベーション維持 魅力ある企業づくり重視

た。「課題の提示に對してのアウトプットが早い」(渡辺和夫取締役)と好感触を示す。

三共製作所

精密機械部品を製造する三共製作所(大阪府東大阪市、松本輝雅社長)は、20年以上前から外国人を採用してきた。現在、全従業員のうち約半数は外国人だ。技能実習生は単純作業、高度人材には技術の中核となる部分も任せる分業制をとり、マネジメントしやすい体制をとりつつ、品質を維持してきた。

ただ技能実習生の中でも技術にほれ込んだ従業員には、本国の大学で勉強させ高度人材で再雇用した事例もある。「大学の費用は全て会社が負担。再び会社で働けることをすごく喜んでくれた」(松本社長)。働くことへのモチベーションの維持も重視する。

厚生労働省によると、日本で働く外国人労働者は22年10月時点で182万人余りと過去最大となった。中小企業にとって人材確保の好機と捉える一方、優秀な人材を呼び込むためには賃金だけでなく「事業を通じての社会貢献や、やりたいことを実現できる」(HCIの奥山社長)魅力ある企業づくりも重視する必要があるとされた。